

「近畿圏における IC カード乗車券の利用率向上に関する提案」

近年、都市部を中心にIC乗車券が普及しており、関東圏での利用率は9割以上である。

しかし、近畿圏は5～7割と他地域に比べて利用率が低い。IC乗車券の利用率が上がると、利用者は改札通過の効率化や店舗での支払いなど、様々な場面において生活の機会損失を減らすことができる。事業者は切符に使用していた紙のランニングコストや現場の人員を削減でき、券売機減少による外部からのテナント誘致等の駅ナカビジネスを展開できる。

これらの理由から、近畿圏においてIC乗車券の利用率を向上させることはこれからの交通事業の発展に資すると考え、近畿圏においてそれを向上させるにはどのような方法があるかを検討した。

近畿圏での IC 乗車券利用の妨げになっている原因は、格安切符の販売や PiTaPa、IC 定期券の問題などにあると考えられる。我々は、IC 乗車券の利用率を向上させるために、ポイントサービスや割引の実施、IC 定期券サービスの統一化、電子マネーの相互理由などを提案する。IC 乗車券の利用に関する先行研究は極めて少ない。デジタルネイティブ世代である我々の提案が、近畿圏の公共交通機関やその沿線の活性化に貢献できれば幸いである。